

難関資格の最短ルート、
アガルート

|受|講|相|談|限|定|

最短合格 学習ガイドブック

国内MBA入試

国内 MBA 試験

合格ハンドブック

AGAROOT ACADEMY

目次

- 第1部：国内 MBA 試験の全体像と学習の基本戦略
 - 1. 国内 MBA とは
 - 2. 国内 MBA 試験の概要
 - 3. 試験科目と対策のポイント
 - 4. 合格に向けた学習戦略の要点
- 第2部：合格へ導く学習カリキュラム戦略
 - 国内 MBA 入試攻略講座
 - 経営学の基礎講座
 - 小論文添削講座（基本編・大学院別対策編）
 - 「出願書類・研究計画書」の書き方講座
 - 研究計画書の研究テーマライブラリー
 - 面接対策講座
 - 合格者分析講座
- 第3部：合格後のキャリアと実務
 - 1. 組織内での活躍（勤務）
 - 2. 先輩合格者の声
- 番外編：後悔しないための志望校の選び方

はじめに

このハンドブックは、国内 MBA（経営学修士）の取得を目指す初学者の方が、試験の全体像を理解し、アガルートアカデミーの講座を活用して効率的に合格を掴むためのポイントをまとめたものです。

国内 MBA への挑戦は、あなたのキャリアを大きく飛躍させる可能性を秘めています。この一冊が、その挑戦の確かな一步を踏み出すための羅針盤となることを願っています。

第1部：国内 MBA 試験の全体像と学習の基本戦略

1. 国内 MBA とは

国内 MBA は、国家資格や民間資格ではなく、大学院の修士課程を修了した者に与えられる「学位」です。正式名称は経営学修士（Master of Business Administration）と言い、経営に関

する高度で専門的な知識とスキルを有していることを証明します。

MBA を一言で表すなら、「経営のプロフェッショナルを育成するプログラム」です。企業の経営資源である「ヒト・モノ・カネ・情報」をいかに効率的に活用し、組織を成長させていくかを体系的に学びます。

合格後のキャリアパスと魅力

MBA 取得後のキャリアは多岐にわたりますが、多くの場合、以下のような道筋でその専門性を発揮します。

- **経営企画・事業開発:** 企業の中核で、全社的な戦略立案や新規事業の立ち上げをリードします。
- **コンサルタント:** 業界を問わず、様々な企業が抱える経営課題の解決を支援します。
- **CxO（最高〇〇責任者）候補:** 経営幹部として、企業の意思決定に深く関与します。
- **起業・事業承継:** 自身のビジネスを立ち上げたり、家業を発展させたりします。

MBA の最大の魅力は、単に知識を得るだけでなく、経営者の視座で物事を捉え、複雑な課題を解決に導く「思考のフレームワーク」を身につけられる点にあります。これにより、キャリアの選択肢が格段に広がり、将来性が大きく開けます。

2. 国内 MBA 試験の概要

国内 MBA プログラムは、主に以下のように分類できます。

分類	特徴
開講形態	全日制（フルタイム）：平日の昼間に開講。学業に専念する方向け。 夜間・土日開講（パートタイム）：働きながら学ぶ社会人向け。
志向性	アカデミック系：研究者養成を視野に入れた、理論研究重視のプログラム。 ゼネラリスト系：幅広い経営知識を学び、実践的な経営人材を育成するプログラム。

ここでは、人気の高い**早稲田大学大学院経営管理研究科（早稲田 MBA）**を例に、具体的な試験情報を見てみましょう。

項目	内容（早稲田 MBA・夜間主総合の例）
受験資格	大学卒業後、3 年以上の実務経験を有する者 等 ※詳細は募集要項をご確認ください
試験時期	秋季（例年 9 月下旬～10 月上旬に出願、10 月下旬に試験）
試験内容	書類審査（出願書類）、小論文、面接
合格発表	例年 11 月上旬

近年の入試結果（早稲田 MBA・夜間主総合）

年度	申込者数	受験者数	合格者数	実質倍率
2024 年度	425	409	151	2.7 倍
2023 年度	455	442	145	3.0 倍
2022 年度	506	490	146	3.4 倍

※アガルート調べ

学費と給付金、国際認証について

- 学費と給付金: MBA の学費は決して安くありませんが、厚生労働省の「専門実践教育訓

「練習付金」の対象となっているプログラムが多く、条件を満たせば学費の一部が支給されます。

- **国際認証:** MBA プログラムの質を保証する国際的な認証制度（AACSB, AMBA, EQUIS など）があります。グローバルなキャリアを考える上で一つの指標となります。
- **高卒からの挑戦:** MBA は大学院のため、通常は大学卒業資格が必要ですが、大学を卒業していないなくても「個別の入学資格審査」により、大学卒業者と同等以上の学力があると認められれば出願資格を得られる場合があります。

3. 試験科目と対策のポイント

国内 MBA 入試では、学力試験の点数で合否が決まるわけではなく、提出書類や小論文、面接を通して、受験者の潜在能力や学習意欲、将来性などが総合的に評価されます。特に以下の 3 つが対策の柱となります。

1. 出願書類・研究計画書
2. 小論文
3. 面接

この中で最も重要なのが「出願書類・研究計画書」です。なぜなら、研究計画書は面接の最重要資料となり、小論文のテーマも研究計画に関連する内容が出題されることが多いからです。つまり、研究計画書の完成度が、入試全体の成否を左右すると言っても過言ではありません。

4. 合格に向けた学習戦略の要点

学習時間と基本サイクル

合格に必要な対策期間は、個人のバックグラウンドによりますが、一般的に 6 ヶ月から 1 年程度が目安です。

時期	主な対策内容
4 月～6 月（基礎固め期）	経営学の基礎知識をインプット。研究テーマの方向性を定める。
7 月～9 月（応用・実践期）	研究計画書を本格的に執筆。小論文の演習を開始。

10月～12月（直前期）	出願。面接対策を開始。小論文の過去問演習。
1月～3月（最終調整期）	面接練習の最終仕上げ。

各科目の対策

① 出願書類・研究計画書

研究計画書とは、「大学院で何を、なぜ、どのように研究したいのか」を具体的に示す書類です。以下の点を明確にする必要があります。

- **問題意識:** あなたが解決したいと考えているビジネス上の課題は何か。
- **研究目的:** その課題に対して、研究を通して何を明らかにしたいのか。
- **先行研究:** これまで、そのテーマについてどのような研究がなされてきたか。
- **研究方法:** どのような手法（事例研究、アンケート調査など）で研究を進めるのか。

質の高い研究計画書を作成するには、**経営学の基礎知識**が不可欠です。経営学の理論やフレームワークを学ぶことで、自身の問題意識を学術的な文脈に位置づけ、論理的で説得力のある計画書を執筆できるようになります。

② 小論文

小論文では、与えられたテーマ（時事的な経営課題など）に対して、制限時間内に自分の考えを論理的に記述する能力が問われます。対策のポイントは以下の通りです。

- **経営学の知識:** 課題を多角的に分析するための「引き出し」として、経営学の知識は必須です。
- **論理的思考力:** 主張と根拠を明確にし、一貫性のある文章を構成する練習を重ねましょう。
- **第三者による添削:** 自分の文章を客観的に評価してもらい、改善点を指摘してもらうことが上達への近道です。

③ 面接

面接は、提出した研究計画書の内容に基づき、研究への熱意や論理的思考力、コミュニケーション能力などが評価される場です。なぜMBAで学びたいのか、なぜこの大学院なのか、修了後はどうしたいのか、といった問いに、自分の言葉で情熱を持って語れるように準備しておく必要があります。

※英語や数学について

大学院によっては、TOEIC スコアの提出が求められたり、統計学などの基礎知識を問う筆記試験が課されたりする場合があります。志望校の募集要項は必ず早期に確認しておきましょう。

第2部：合格へ導く学習カリキュラム戦略

講座名：国内 MBA 入試攻略講座

- 役割・獲得目標:

この講座は、本格的な学習を始める前の「羅針盤」です。国内 MBA 入試の全体像から、各大学院の特徴、合格までの学習スケジュールまで、対策を始める上で知っておくべき全ての情報が詰まっています。まずはこの講座で全体像を掴み、合格までの道のりを具体的にイメージすることが目標です。

- 効果的な学習法:

最初に必ず視聴してください。ここで得た情報を基に、ご自身の学習計画を立てていきましょう。学習の途中で方向性に迷った時や、モチベーションが下がった時に見返すことで、初心に戻り、やるべきことを再確認できます。

講座名：経営学の基礎講座

- 役割・獲得目標:

MBA 入試における全ての対策（研究計画書、小論文、面接）の土台となる経営学の知識を体系的にインプットするための講座です。経営戦略論、組織論、マーケティング、会計・ファイナンスといった主要分野の基本概念を網羅的に理解し、経営課題を多角的に分析するための「思考の引き出し」を増やすことが目標です。

- 効果的な学習法:

まずは講義を一周視聴し、経営学の全体像を掴みましょう。その後、ご自身の研究テーマと関連の深い分野や、苦手な分野を繰り返し学習します。後述する研究計画書の作成や小論文対策と並行して進めることで、インプットとアウトプットを効率的に連動させることができます。

講座名：小論文添削講座（基本編・大学院別対策編）

- 役割・獲得目標:

「基本編」では、小論文の基本的な型（PREP 法など）を学び、論理的な文章構成力を養います。「大学院別対策編」では、志望校の過去問を実際に解き、その大学院特有の出題傾向に合わせた実践力を高めます。講師による個別添削を通じて、自分では気づきにくい論理の弱点や表現のクセを克服し、合格レベルの答案を作成する力を身につけることが目標です。

- 効果的な学習法:

必ず添削を受けてください。書いて終わりにするのではなく、講師からのフィードバッ

クを基に、答案を何度も書き直す（リライトする）プロセスが最も重要です。この繰り返しにより、思考が整理され、論理構成力が飛躍的に向上します。

講座名：「出願書類・研究計画書」の書き方講座

- 役割・獲得目標:

国内MBA入試の最重要項目である研究計画書の作成を、テーマ設定から完成まで一貫してサポートする講座です。先行研究の探し方、論理的な構成の組み立て方、説得力のある文章表現などを学び、面接官に「この学生を指導してみたい」と思わせる質の高い研究計画書を完成させることが目標です。

- 効果的な学習法:

講義で書き方を学んだ後、まずは自分でドラフト（下書き）を作成してみましょう。そして、必ず講師による添削指導を受けてください。自分の問題意識が、学術的な研究テーマとして成立するか、論理に飛躍はないかなど、専門家の視点から客観的なアドバイスを受けることで、計画書の質が劇的に向上します。

講座名：研究計画書の研究テーマライブラリー

- 役割・獲得目標:

研究テーマがなかなか決まらない、という方のための「ヒント集」です。様々な分野の論文テーマ例がストックされており、自身の興味・関心と社会的な課題を結びつけ、具体的な研究テーマへと昇華させるためのアイデアを得ることが目標です。

- 効果的な学習法:

まずは幅広いテーマに目を通し、ご自身の問題意識に近いものを探してみましょう。そこから関連するキーワードを拾い、論文検索サイトなどで先行研究を調べることで、オリジナルの研究テーマへと発展させていきます。

講座名：面接対策講座

- 役割・獲得目標:

提出した研究計画書を基に、講師が面接官役となって模擬面接を行います。研究内容に関する深い質問や、予期せぬ角度からの質問に対応する訓練を通じて、本番で落ち着いて受け答えできる自信と対応力を養うことが目標です。

- 効果的な学習法:

模擬面接では、自分の回答を録画・録音して客観的に振り返ることが非常に効果的です。話すスピード、視線、姿勢、言葉遣いなど、自分では気づかないクセを修正していきましょう。講師からのフィードバックを素直に受け入れ、改善を重ねることが合格への直結します。

講座名：合格者分析講座

- 役割・獲得目標:

実際に入試を突破した合格者の出願書類や小論文の答案を分析し、「合格レベル」を具体的に知るための講座です。合格者はどのような論理構成で、どのような視点から課題を分析しているのかを学ぶことで、自身の目標設定をより明確にすることが目標です。

- **効果的な学習法:**

ただ読むだけでなく、「自分ならどう書くか」を考えながら分析することが重要です。合格者の優れた点を自分の答案に取り入れ、逆に「自分ならもっとこう表現する」という視点で批判的に読むことで、より深い学びが得られます。

第3部：合格後のキャリアと実務

MBAへの挑戦を考えるとき、その先にあるキャリアがどのように開けるのかは、最も関心の高いテーマでしょう。この第3部では、MBA取得がもたらすキャリアの可能性と、実際に合格を掴んだ先輩たちの体験談をお届けします。

1.組織内での活躍（勤務）

MBAの学びは、あなたに「経営者の視点」を与えてくれます。これにより、これまでとは異なる次元で仕事に取り組むことができるようになり、キャリアの可能性が大きく広がります。

主なキャリアパス

- **社内での昇進・昇格:** 経営企画、事業開発、マーケティング統括といった、より上流の意思決定に関わるポジションへの道が開けます。これまで現場で培ってきた経験に、MBAで得た体系的な経営知識が加わることで、説得力のある戦略を立案・実行できる人材として高く評価されます。
- **異業種・異職種へのキャリアチェンジ:** MBAは、キャリアの方向転換を可能にする強力なパスポートです。特に、コンサルティングファームや金融専門職、スタートアップの経営幹部といった、高度な経営知識と論理的思考力を求められる分野への転職事例が数多くあります。
- **年収アップの可能性:** MBA取得が直接的な年収アップを保証するわけではありませんが、より責任の重いポジションに就いたり、評価の高い企業へ転職したりすることで、結果的に年収が向上するケースは少なくありません。重要なのは、MBAで得た学びを実務でいかに価値に変えていくかです。
- **起業・事業承継:** 自身のビジネスを立ち上げる、あるいは家業を継ぐ際に、MBAで学ぶ経営のフレームワークは強力な武器となります。事業計画の策定から資金調達、組織マネジメントまで、成功の確率を高める知識とスキルを身につけることができます。

他の資格とのシナジー

MBAは、他の専門資格と組み合わせることで、その価値をさらに高めることができます。

- **中小企業診断士:** 中小企業の経営課題を分析・助言する国家資格。MBAの理論的知識と

診断士の実践的ノウハウは親和性が非常に高く、コンサルタントとしてのキャリアを考える上で最高の組み合わせの一つです。

- 公認会計士・税理士: 会計・財務のプロフェッショナルが MBA を取得することで、数字の面から経営戦略を語れる、唯一無二の存在になることができます。

2. 先輩合格者の声

ここでは、様々な環境の中で見事合格を掴んだ先輩たちのリアルな体験談をご紹介します。

ケース 1: A さん (30 代・IT 企業勤務)

● 学習スタイル:

平日は仕事が忙しく、まとまった学習時間は週末に集中。平日は通勤電車の中などのスキマ時間を活用し、「経営学の基礎講座」の動画を 1.5 倍速で繰り返し視聴。インプットを徹底的に行いました。

● 合格の秘訣:

「『出願書類・研究計画書』の書き方講座での講師の添削がなければ、合格はあり得ませんでした。自分一人では気づけなかった論理の飛躍や、表現の甘さを的確に指摘してもらえたおかげで、書類の質が劇的に向上しました。最初は指摘に落ち込みましたが、素直に受け入れて修正を繰り返したことが合格に繋がったと思います。」

● 後輩へのアドバイス:

「『なぜ MBA なのか』をとことん自問自答してください。その答えが明確になれば、研究計画書も面接も、自信を持って自分の言葉で語れるようになります。」

ケース 2: B さん (40 代・メーカー管理職・子育て中)

● 学習スタイル:

学習時間は、子どもが寝た後の 22 時から 25 時の 3 時間と、早朝の 1 時間。限られた時間で成果を出すため、「今日は小論文を 1 本書く」「今週中にこの講座を見終える」と、短期的な目標を細かく設定し、ゲーム感覚で一つずつクリアしていくことを意識していました。

● 合格の秘訣:

「アガルートの講座は、スマホ一つで完結するのがありがたかったです。テキストもデジタルで読めるので、会社の昼休みや出張の移動中など、場所を選ばずに学習を進められました。特に小論文の添削は、自分の思考のクセを客観的に知る良い機会になりました。」

● 後輩へのアドバイス:

「働きながら、家庭を持ちながらの挑戦は簡単ではありません。だからこそ、予備校をうまく活用して、効率的に学習を進めることが重要です。一人で抱え込まず、プロの力を借りることをお勧めします。」

ケース 3: C さん (20 代・公務員)

- 学習スタイル:
比較的定時に退庁できるため、平日は毎日3時間、休日は8時間の学習時間を確保。学習計画を週単位で立て、進捗を可視化することでモチベーションを維持していました。
- 合格の秘訣:
「『面接対策講座』の模擬面接が非常に役立ちました。自分では完璧だと思っていた受け答えも、講師の視点から見ると多くの改善点があることに気づかされました。本番さながらの緊張感で練習できたおかげで、実際の面接では落ち着いて対応できました。」
- 後輩へのアドバイス:
「合格者の体験談を読むと、すごい経歴の人ばかりで気後れするかもしれません。でも、大事なのは過去の実績よりも、未来への熱意と学習意欲です。自信を持って挑戦してください。」

番外編：後悔しないための志望校の選び方

数多くの国内MBAの中から、自分に最適な一校を見つけるのは簡単なことではありません。ここでは、志望校選びで失敗しないための5つの視点をご紹介します。

1. 「何を学びたいか」「どんな人材になりたいか」で選ぶ

- ゼネラリスト or スペシャリスト?: 幅広い経営知識を学びたいならゼネラリスト養成のプログラム、特定の分野（金融、マーケティングなど）を深めたいなら専門分野に特化したプログラムが向いています。
- 教授陣の研究分野: 自分の研究テーマに合致する専門の教授がいるかは、非常に重要なポイントです。大学院のウェブサイトで教員紹介を必ずチェックしましょう。

2. ライフスタイルに合わせて「学び方」で選ぶ

- フルタイム or パートタイム?: 仕事を辞めて学業に専念するのか、働きながら学ぶのか。ご自身のキャリアプランや経済状況と照らし合わせて選択しましょう。
- 開講場所と時間: パートタイムの場合、無理なく通い続けられるキャンパスの立地か、講義の時間帯は自分の勤務スタイルと両立できるか、といった物理的な条件も重要です。

3. 「教育の質」で選ぶ

- 国際認証（AACSBなど）: MBAプログラムの質を客観的に評価する国際的な認証です。グローバルなキャリアを視野に入れるなら、認証の有無は一つの判断基準になります。
- カリキュラムの特色: ケーススタディ中心か、講義形式が多いか。実践的なプロジェクトや海外研修の機会は豊富か。各校の特色を比較検討しましょう。

4. 「人との繋がり」で選ぶ

- **学生の多様性:** 在学生の年齢層、業種、職種は、あなたの学びの質や得られるネットワークに大きく影響します。説明会やウェブサイトで、どのような学生が集まっているかを確認しましょう。
- **卒業生（アルムナイ）ネットワーク:** 卒業後のキャリアを支えてくれる強力なネットワークです。アルムナイ組織の活動が活発かどうかも見ておきたいポイントです。

5. ランキングとの付き合い方

各種メディアが発表する MBA ランキングは、あくまで一つの参考情報です。ランキング上位校が、必ずしもあなたにとってベストな学校とは限りません。最も大切なのは、実際に説明会やオープンキャンパスに足を運び、学校の雰囲気や教員、在学生と直接話をして、ご自身との相性を確かめることです。